

(別添資料 1)

事業所名

スコール白百合

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7 年

9月

1. E

法人（事業所）理念		「仕事を通して真理をもとめ、生命を守り育て共に生きること」を目指す法人の運営理念に基づき、児童発達支援ガイドライン、児童福祉法を遵守し運営を行う。							
支援方針		①子どもたちの好きなことを大切に、それぞれの持っている力を伸ばせるようにすること。 ②子どもたちが遊びを通して、日常生活における基本動作や知識技能について学ぶことができる機会を創造していくこと。 ③仲間と楽しさを分かち合える力を育て、集団生活に適應できるようにしていくこと。							
営業時間		火～土 (日月休み)	9 時	30 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	登所したら靴を脱いで下駄箱にしまう、トイレに行って手を洗って部屋まで行く、部屋についたらお支度をするなどを繰り返すことで、生活の流れを覚えていく。掲示された一日のスケジュールをみて、一日のやることを理解できるようになる。また、自分の荷物は自分で管理できるようになっていく。一日の活動の終わりにはおやつと飲み物で一息つき、活動のくぎりとする。							
	運動・感覚	大人と1対1または1対2で取り組む個別課題を通して、手指の動きを模倣する力、目と手の協応を身に着けたり、文字学習の基礎を作ったりしていくことに繋げる。小集団での運動遊びを通して、手と目の協応、体幹の安定、空間認知などを身に着けていく。							
	認知・行動	自立課題ですでにできていることに繰り返し取り組むことで、定着を確実なものとしていくとともに、集中力を身に着けていく。個別課題では、大人とやりとりをしながら認知課題や言語課題に取り組むことで、コミュニケーションをしながら少し先に進んだ認知的概念の形成、定着につなげる。							
	言語 コミュニケーション	個別課題で大人と一緒に課題に取り組む中で、コミュニケーション能力を身に着けたり語彙を増やしたりしていく。小集団での歌遊びや手遊びを通して、共に学ぶ仲間の名前を覚えたり、歌に合わせて語彙を増やしていったりする。一日の終わりのおやつの中には、要求を伝えることを練習する。							
	人間関係 社会性	個別課題において、大人と一緒に、あるいは大人ともう一人の子どもと一緒に課題に取り組むことで関係性づくりをしていく。小集団での遊びを通して、ルールに沿って遊ぶことを学んだり、自分の思っていること、やりたいことを伝えられるようになる。							
家族支援		・保護者の困り感、児童や家庭の状態を把握したプログラムの提供を目指す。 ・日々のプログラムでの子どもたちの様子を丁寧にフィードバックし、各家庭でもできる支援についての助言を行う。 ・プログラムの見学や個別相談を通して子どもたちの伸びを伝え、保護者の困り感に寄り添い、保護者と共に子どもたちを育てていく。 ・保護者から相談があった場合には、スコーレ白百合で子どもについての相談を受けるほか、必要に応じて白百合心理相談室とも連携し、保護者の支援を行っていく。				移行支援		子どもたちがスムーズに保育園・幼稚園や小学校、放課後デイサービス等の移行先施設に通えるよう、移行先施設との間で退所後の生活に向けた会議を開催したり、移行先施設に訪問して助言・援助などを行ったりする。	
地域支援・地域連携		①保育園・幼稚園との連携 子どもたちが通っている保育園・幼稚園に訪問し、集団場面での様子を把握し、職員と連携をする。 ②児童相談所やこども家庭センターなど行政機関との連携 社会的養護の子どもたちも利用の対象であることから、家庭だけでなく児童相談所などの行政機関との連携も丁寧に行っていく。また、保護者のニーズアセスメントを丁寧に行い、必要に応じて行政機関へつないでいく。 ③地域の通所支援事業所連絡会への出席							
職員の質の向上		ケース会議・勉強会などの施設内研修制度を設けるほか、各種外部研修を受講する。また、具体的なケースに即して定期的に発達・臨床心理学の専門家などにスーパーバイズを受ける機会を設ける。							
主な行事等		同法人内白百合ベビーホームで開催される各種プログラムへの参加 毎月開催：ダンスプログラム、リトミック 隔月開催：コンサートリーディング							